

令和5年度 八千代小学校 学校評価シート				学校教育目標	思いやりの心もち 共に学び合い高め合う 八千代っ子の育成	
めざす学校像		本年度の重点目標			努力事項（評価の観点）	
○子どもたちが安心して過ごし、学び続けている学校 ○教職員が子どもへの教育にやりがいを感じ、充実感を味わえる学校 ○保護者が子どもを安心して任せられる学校 ○地域から信頼され、誇りに思われる学校		○人を大切にする子どもの育成 ○進んであいさつをし、人の話をしっかりと聞く子どもの育成 ○一生懸命学び続ける子どもの育成			○確かな学力の育成 ○豊かな心の育成 ○健やかな体の育成 ○安全・安心な学校づくり ○地域から信頼される開かれた学校づくり ○働きやすい職場環境づくり	
評価（達成状況）【 4:達成している 3:おおむね達成している 2:あまり達成していない 1:達成していない 】					総合評価 A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満	
観 点	項 目	実践内容	◎○△	総合評 価	取組（達成）の状況と課題・改善方策	
確 かな 学 力	（基礎基本の定着・わかる授業づくりの充実） ○基礎基本を大切にし、確かな学力をつけるための授業づくり・学級づくりができたか。	①授業において、児童の視点に立った「めあて」を提示し、学ぶ内容や見通しを持たせる。  ②算数科の授業で、八千代小スタンダードや毎日できる授業づくりチェックシートを活用し、「見通し・表現・ふりかえり」を取り入れたを授業を実践する。  ③算数科の授業の中で、自分の考えを表現する時間を確保し、考えを広げたり深めたりする。  ④算数科の授業において、「ふりかえり」を書く習慣を定着させる。  ⑤学年初めに学級経営交流会を行う。それをもとに学級経営案を立案し、定期的な学級経営交流会で、学級経営状況や取り組みの交流を図る。そうすることで、教育技術の継承や学級経営を客観的に振り返る機会とする。	◎  ◎  ○  ○  ◎	3.5 A (3.2)	・算数科授業において、「見通し・表現・ふりかえり」の視点を全学年共通で取り組むことができた。共通理解に時間をしっかりと取り、研究を進めたことで、学年を越えた学習内容のつながりや系統性を意識することができた。授業における「見通し」では、算数科以外の授業においても、児童の視点に立った「めあて」の提示が定着した。「表現」では、自分の考えを書くことができる児童は確実に増えた。引き続き児童の表現力を高める研究を継続していきたい。  ・毎日できる授業づくりチェックシートは、改善を重ねてきたが、毎時間の授業構想に使えているとは言えない。毎日使えるチェックシートとなるように引き続き改善に取り組んでいきたい。  ・学級経営案を元にした学級づくりに取り組むことができた。また、定期的なグループ別「学級経営交流会」を通して、自分の学級経営に参考となる情報交換ができたり自分自身の学級経営について振り返ることができたりする大切な時間になっている。教育技術の継承という側面からも、今後も継続していきたい。	
	（読書活動の充実） ○読書活動の向上や読書習慣の定着を図れるよう積極的に活動を推進することができたか。	①読書カードに記録をつけることにより、読書への意欲を高める。職員、学校図書館アドバイザー、図書ボランティアによる読み聞かせや図書委員会による読書イベントを行い、本の楽しさにふれる機会を多く作る。  ②多可町図書館と連携し、学習過程に応じた資料や図書を、団体貸し出しを活用して準備し、調べ学習に取り組みやすくする。	◎  ○	3.1 A (3.0)	・学校図書館アドバイザーによる授業や図書委員会の取組等で、図書室を訪れる機会は増えた。しかし、中・高学年の児童の利用は少ない。中・高学年の児童にも図書室へ定期的に来室する時間（朝の学習・国語）を設定していく。  ・高学年の児童は電子書籍を好んで読んでいる。紙書籍の特性も踏まえ、目的に合わせて紙書籍も積極的に取り入れていく。	
	（家庭学習の習慣化） ○家庭との連携を深め、家庭学習を充実させることができたか。	①学習の手引きを配布し、家庭学習の内容や学習時間について共通確認を図る。  ②学期に1回、家庭学習ががんばり週間を実施し、定期的に学習習慣の見直しを図る。	◎  ○	3 A (3.3)	・学年の初めに学級懇談会を実施し、学習の手引きの紹介や担任の思いを保護者に伝えることができた。  ・がんばり週間の取組では、多くの児童が目標を達成できた。自己の生活習慣の振り返りや家庭への啓発という意味でも、学期に1回の実施は適切であると考え。目標の学習時間については、事前に学年通信などで周知し、日頃から意識させていく。 ・がんばり表では、色分け等を簡素化し、確実に全員が記入できるよう改善していくことが必要。	
					学校関係者評価	
					学校自己評価及び改善方策の適正さの評価	

豊かな心の育成

	<p>（<b>道徳教育の充実</b>）</p> <p>○道徳科の授業を中心に、教育活動全体を通して道徳性を養うことができたか。</p>	<p>①八千代小スタンダードや資料分析シートを活用し、考えを深め合える道徳授業をすすめる。</p> <p>②人権の集会や命の話などの教育活動と関連づけながら、道徳的心情を育てる。</p> <p>③道徳の指導計画に沿って、ほほえみなどを活用する。また、人権教育コアカリキュラムに沿って、同和教育をすすめる。</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>3 A (3.0)</p>	<p>・八千代小スタンダードや資料分析シートを活用しながら、これからも考えを深め合える道徳の授業にしていく。八千代小スタンダードの見直しも必要である。</p> <p>・本年度は体育館に集って命と人権集会を行ったが、今後はリモートも活用していく。担当教員からの話で終わらず、担任が目の前の児童に合わせて解説したり感想を述べたりすることで、児童の考えを深めさせたい。</p> <p>・年間指導計画が毎週1時間の道徳を確実に進めていくためのよい指標となっている。同和教育についても年間指導計画に組み込むことで各学年が実施できるようにしている。よりよい年間指導計画にしていくために、教材や発問を再検討していく。</p>	<p>いじめに関する質問で、子どものポイントが高い。仲良くしている、いじめはいけないことであると答えているポイントが特に高い。</p>
	<p>（<b>人権教育の充実</b>）</p> <p>○人権教育を全体計画をもとに、それぞれの教科や領域で指導が進められたか。</p>	<p>①1学期に「プチハッピー」2学期に「あったかの花」3学期に「ハートカード」の取り組みを行うことで、子どもたちの自己有用感や自己肯定感を高め、また友だちを大切にする態度を育てる。</p>	<p>◎</p>	<p>3.7 A (3.7)</p>	<p>・学期に1回ハートカードの取組を行った。ハートカードを通して、自分のいいところを新たに発見したり、友達に見つけてもらったりし、子どもたちの自己有用感や自己肯定感を高めることができた。今後も、継続して取り組んでいく。</p>	<p>プチハッピーでちょっとした嬉しい出来事に気づいたり、あったかハートの取組で、うれしかったことを人に伝える活動をしたりしているのは、良い取組である。</p>
	<p>（<b>いじめを許さない取組の充実</b>）</p> <p>○いじめ防止対策の目標が達成できたか。</p>	<p>①教員に対して、いじめやこの学校の取り組みについて共通理解を図る。</p> <p>②「いじめの未然防止・早期発見に向けて」の年間指導計画の取組を進め、見直しを図る。</p> <p>③児童に対して、日常の観察や個人面談、アンケート調査を行い、いじめの早期発見に努める。また、早期解決に向け組織的な対応をする。</p> <p>④児童に対して、いじめを正しく理解するための授業を、年3回行う。</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>3.7 A (3.4)</p>	<p>・全職員でいじめや取組について共通理解し、学校全体で取り組むことができた。</p> <p>・学校生活相談シートも含め、年間指導計画の内容に丁寧に取り組むことができた。年間指導計画は見直し、削減できる内容があれば軽量化していく。</p> <p>・低学年にも「いじめの四層構造」を理解し、自分の立場を認識する姿が見られた。引き続き、いじめを正しく理解する授業は丁寧に行っていきたい。</p> <p>・いじめを正しく理解する授業の指導案を、子どもたちの実態に合ったものに改善していく。</p>	
	<p>（<b>自己有用感、自己肯定感を高める取り組みの推進</b>）</p> <p>○児童が主体的に活動し、自尊感情を高める特別活動（児童会活動・学級活動・委員会活動等）の充実を図れたか。</p>	<p>①異学年での交流を目的とした「ささゆりチーム」での活動を1ヶ月に1回取り入れていくことで、教師からの働きかけだけではなく児童が主体的に関わり合う場を増やしていく。</p> <p>②学校の諸課題に児童自身が解決を目指して取り組めるように、生活指導委員会と連携し、運営委員会を行う。</p> <p>③児童がよりよい学校づくりに取り組めるように、児童会を中心に話し合う運営委員会を行う。その内容を児童集会や代表委員会で各クラスに伝え、全校生を巻き込んで取り組みを行っていく。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>3 A (3.4)</p>	<p>・月に1回ささゆり遊びを行い、異学年の関わりを深めることができた。</p> <p>・ささゆり遊び以外にも、異学年でのつながりを深め、子どもたちが主体となって動くような機会をさらに取り入れていきたい。</p> <p>・生活指導委員会と児童会の連携を深め、学校の課題に合った取組を全校生で進めていく意識を高めていきたい。</p>	<p>自己肯定感に関して、児童の意識を聞く質問を入れてはどうか。</p> <p>日本人は低い傾向で出るというが、自己肯定感はずごく大事。今後も高める取組をしていくことが大切である。</p> <p>体験活動について。学校の調理実習でほうれん草のおひたしを作ったことがきっかけで、家でも作るようになった。家でも任せている。</p>
	<p>（<b>特別支援教育の充実</b>）</p> <p>○特別支援教育や支援が必要な児童について共通認識・理解をし、個々の児童へ適切な支援を行うことができたか。</p>	<p>①支援を要する児童について共通理解を図り、積極的に情報交換をしたり校内ケース会議をしたりするなど、継続的に支援する。</p> <p>②個別の支援計画・指導計画を作成したり、サポートファイルに記録したりするなど、計画的、継続的に支援する。</p> <p>③スクールカウンセラーや、北はりま特別支援学校コーディネーター等外部機関とも連携して支援する。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>3.5 A (3.3)</p>	<p>・年度当初に支援を要する児童について共通理解を図った。スクールカウンセラーや北はりま特別支援学校のコーディネーター等、専門機関に配慮の必要な児童の様子を定期的に見てもらい、助言をもらうことができた。指導助言は記録して職員間で共有し、次年度以降に引き継いでいく。</p> <p>・計画的、継続的に支援するために、サポートファイルの記入を行った。今後も効果的に活用していきたい。</p> <p>・スクールカウンセラーの指導のもと、八千代小ビジョントレーニングを作り、全校で取り組んだ。マンネリ化を防ぎ、継続することが課題である。</p>	
	<p>（<b>体験活動の充実</b>）</p> <p>○児童が問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育てることができたか。</p>	<p>①総合的な学習の時間の年間計画を活用し、各学年での確実な実施につなげる。</p> <p>②児童が体験活動を主体的に取り組めるよう、体験前の準備・計画、体験後の振り返りを行う。</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>2.8 B (2.9)</p>	<p>・総合的な学習の年間指導計画を配布し、見直しをもって学習を進められた。</p> <p>・八千代小での総合的な学習の年間指導計画を考え直す時期がきている。本年度の振り返りを生かし、来年度のカリキュラム作りを進めていく。</p> <p>・体験前には何を目的に取り組むかを考えさせ、体験後には学年に応じて絵日記や文章にまとめる等の振り返りを行い、次活動や学校生活に生かせるようにした。</p>	<p>総合的な学習で行う福祉学習や環境体験学習は、決まったプログラムでしているので、それに合わせて、学習の目標や意図を考え直すことも必要になってくる。</p>

健 や か な 体	<p>（<b>基本的な生活習慣・生活態度の確立</b>）</p> <p>○児童に基本的な生活習慣を身につけさせたか。</p> <p>○情報交換を密にすることで、問題行動等の未然防止や早期発見・早期対応に努めているか。</p>	<p>①「八千代小学校8つのきまり」を児童一人一人が進んで守り生活できるように、基本的な生活習慣を身につけさせる。そのために、教師全員で取り組むことを決め、指導内容を一貫させる。また、担任交換等で児童を全員で見守るようにする。</p> <p>②課題について、児童会と連携して取り組み、よりよい学校生活を送れるようにする。</p> <p>③日常の報告・連絡・相談、生活指導委員会や職員会議での情報交換により、指導の方向を共通理解し指導を進める。地域での情報収集を行い、問題行動への未然防止、早期発見、早期対応につなげる。</p>	○   ○   ◎	3.4 A (3.3)	<p>・児童会からの各月のめあてとして8つのきまりを児童に意識させて取り組んだ。今後は生活指導担当からも定期的に話をする機会をつくり、より一層8つのきまりを意識させていく。8つのきまりは見直し、学校の実態にあったものに再検討していく。</p> <p>・担任交換を行い、多くの目で児童を見守る機会をつくった。</p> <p>・職員会議で子どもの様子を共有している。今後は、学校の課題も明らかにし、児童会と連携しながら月毎のめあてを決定していく。</p> <p>・長期休みには補導を行い、地域の情報を集めている。</p>	児童会と連携した生活指導の取組を検討する。
	<p>（<b>体力づくりの推進</b>）</p> <p>○児童が主体的にスポーツに親しむ習慣や意欲、態度を育てることができたか。</p>	<p>①体育ファイルを継続活用し、児童が目標をもって運動に取り組めるようにするとともに、各家庭と児童の体力等について情報共有を図る。</p> <p>②「かけ足運動」や「なわとび運動」週間を設定し、体力や集中力、クラスの一体感を高める。「できた」という達成感を味わわせ、主体的に体を動かせる児童が増えるようにする。</p>	○   ◎	3.2 A (2.8)	<p>・体育ファイルの学年間の引き継ぎや積み上げがしっかりできていなかったので、年度の初めにしっかりと確認を行う。</p> <p>・朝のかけ足や大縄などの取り組みは児童にも良い影響が出ていたと思う。楽しく体を動かす取り組みをこれからも続けていきたい。</p>	体力づくりに関しては、地域で遊べるところがないが、学校ではよく体を動かしている。学校があるから、体力の維持ができていとも言える。
	<p>（<b>健康教育・食育の推進</b>）</p> <p>○食を通して、児童の健康づくりや、好き嫌いなく食べる態度の育成が図れたか。</p>	<p>①学習内容と関連させながら、栄養教諭と連携して食に関する学習に取り組む。</p> <p>②給食委員会の児童とともに、準備や片付けの指導や完食を目指す取り組みをする。</p>	◎   ○	3.2 A (2.9)	<p>・玉ねぎの皮むき体験や魚の骨の取り方、お箸の使い方、バランスよく食べる組み合わせなど、全学年で、栄養教諭による食育を行うことができた。また、給食センターからの食育動画を効果的に使うことができた。</p> <p>・給食委員会で身だしなみチェックや残食調べの取組をしたことで、給食時の身だしなみを整えたり、完食を目指そうとしたりする意識に繋がった。今後も引き続き身だしなみを整えることや好き嫌いなく食べる姿勢を育てていきたい。</p>	給食はよく食べている。保護者の点数は低いが、給食は食について考える良い機会になっている。
安 心 ・ 安 全 な 学 校 づ く り	<p>（<b>安全・安心な学校づくり</b>）</p> <p>○安全点検、防犯防災訓練などを行うことにより、未然に事故防止を図る取組が進められたか。</p> <p>○防災教育の実践の深化・充実を図り、交通安全指導（交通安全教室、登下校指導等）が効果的に行われたか。</p>	<p>①防災訓練等を定期的に行い、教職員と児童が災害時の考え方や動き方について学ぶ。安全点検を毎月実施し、事故の未然防止に努め、教職員の共通理解も図る。</p> <p>②副読本や震災関連のDVDの活用、体験者の話を聞くことができるコークゼミによる学習を通して、防災への意識を持てるようにする。毎月行う登校・下校指導を通して、安全に登下校できるようにする。</p> <p>③学期に一度、バス通学の登校指導を行う。交通安全教室を通して、歩行や自転車への乗り方等、交通ルールを守った安全な動きを身につけさせる。ささゆりサポート隊の方と連携をとり、児童の安全な登下校に努めるとともに、子どもたちの実態を把握し、安全指導を徹底する。</p>	◎   ○   ◎	3.6 A (3.6)	<p>・地震の避難訓練では、休み時間や防火扉を利用するなど様々な状況での訓練が行うことができた。避難の様子を録画することで児童の実態が見られ、教師・児童共に学ぶことが多かった。6月（水害）12月（火災）1月（地震）に避難訓練を行ったが、4月中に、避難経路の確認として訓練を行っておく必要がある。夏休みに教職員のための不審者対応訓練を行ったが、児童も行う必要がある。</p> <p>・本年度の児童引き渡しは、受付・待機場所・引き渡しを全て体育館で行ったため、引き渡しが円滑にできた。</p> <p>・交通安全教室は、午後からの開催となった。下校時刻には間に合ったが、反省会を行うことができなかった。来年度からは午前中の開催にしたい。</p>	防災訓練は工夫しながら推進したので、充実している。これからもさらに工夫を加えながら、命を守る訓練となるようにしていく。
地 域 か ら 信 頼 さ れ る 開 か れ た 学 校	<p>（<b>地域に根ざしたふるさと教育の推進</b>）</p> <p>○地域に根ざしたふるさと教育が推進できたか。</p>	<p>①道徳や社会科の学習と関連させながら「多可町ふるさと検定」に取り組み、多可町への理解を深める。</p> <p>②ふるさと教材として扱われている場所や施設の学習と関連づけて、実際に見学する体験を取り入れていく。</p>	○   ○	2.6 B (2.7)	<p>・道徳の年間カリキュラムにある「ふるさと教材」授業を実施したり、社会科副読本「わたしたちのふるさと多可町」を授業の中で活用することで、多可町への理解を深めた。また、「多可町ふるさと検定」にも対象学年児童が取り組むことができた。</p> <p>・ふるさと教材として扱われている場所や施設の見学や体験は、総合的な学習の時間（3～6年）や生活科（1、2年）・社会（3～6年）の学習内容と関連づけた「全学年一覧表」を作成することで、見える化を進める。また、カリキュラムの中に位置づけていきたい。</p>	敬老の日発祥の地の八千代区なので、PRできる取り組みがあればよい。門脇政夫さんのビデオもあるので、見れば分かる。
	<p>（<b>「コミュニティ・スクール」の充実</b>）</p> <p>○学校運営協議会を開催し、地域と連携した協力体制を確立することができたか。</p>	<p>①学校運営協議会での協議内容については職員会議で共通理解を行い、学校現場からの要望や検討事項については運営協議会で提案していく。</p>	○	3.3 A (3.3)	<p>・学校運営協議会後には、職員会議で協議内容を報告し、共通理解を図った。</p> <p>・コミスクの役員の方々と本校職員の顔合わせの機会が必要。</p> <p>・「ふれあいまつり」へのコミスクからの出店が児童との交流の場となった。</p>	コミスクでもふれあい祭りでブースを出したのがよかった。子どもたちは喜んでいた。一方で、委員さんと普段はなじみがないので、顔合わせの機会がいるか。